インドネシア訪問を終えて

田中　宏果（兵庫県立芦屋国際中等教育学校３年）

中学生を機に世界について興味を持ち始めました。学校の校風も国際的なところもあり将来も国際的な仕事に就きたいという思いも次第に強くなっていました。私は毎日身近に自分とは異なる国籍を持つ友達がいるという恵まれた環境にいる、だからこそ今出来ることを学べることを一生懸命やろうと思っています。中学三年生になってこれから先の事を現実的に考える機会が多くなりました。その時にこのサミットの応募を知り、このチャンスを逃してはと思い応募しました。採用していただけて本当に感謝しています。中学三年生というと一般的に受験の時期ですが私の学校には受験がありません。この一年間を受験という形では過ごさない分、自分と向き合う時間にしようという思いを持っている友達が多く、これまで短期留学やホームスティなどの様々な体験談を聞いてきました。その中で「英語力よりも楽しむのが一番」と言う声がとても多くありました。母国語ではない言語で自分の気持ちを伝えるってどんな感覚なのだろう、英語が伝わった時の嬉しさを感じたい、そういう思いもありました。これらが私が応募したきっかけです。

訪問前、私は発表原稿、日本語、英語、パワーポイントを作成するにあたってどれだけ正しい情報を得ることが重要なことであるかを学びました。その中でも一番プレゼンテーションの練習で自分を成長させることが出来たと思います。言葉で気持ちを伝えるには、話すスピードや強弱、伝えたいという気持ちが大切だととてもよく分かりました。これからもっと人に伝える力を培っていきたいです。

インドネシア訪問がスタートし、期待とサミットへの不安の両方の気持ちが入り混じっていました。初めてプレゼンテーションの練習をしたとき、伝える難しさを心から感じました。けれども、ここまで頑張って原稿も作ってきたのだから諦めずに自分の納得出来る発表にしようと思いました。インドネシアの学校との交流が始まり、最初は緊張しました。私の学校のアートマイル交流相手校である SMPN23 の先生や生徒に会えたときは本当に嬉しかったです。なぜなら、私達の学校は上手く連絡が取れず予定していた skype をすることが出来なかったからです。私達の学校では skype での交流に向けて準備をして、本当にみんな楽しみにしていたので残念でした。だからこそ絶対に絵を渡して帰らないといけないという気持ちがありました。学校訪問をした時に私達が送った手紙を掲示しているのを見つけて本当に来て良かった、海を越え場所は離れていても気持ちはちゃんと伝わるのだなと感じました。不思議な感覚でした。今度はこの訪問で学んだこと、感じたことを私の学年のみんなにしっかり伝えようと思いました。

ユースサミットが始まり初日の文化交流ではパートナー校以外の学校の子とも仲良くなれました。とくに印象深かったのはディスカッションです。最初は本当に無理だと思っていましたが、いざ自分の力だけで英語でやらなくてはいけないとなると、知らないうちに馴染むことが出来ました。それはパートナー校の子が絵を描いてくれたり写真を見せてくれたりしてくれたからです。本当に良い経験でした。

2日目のプレゼンテーション本番の日は緊張しました。しかしその緊張はいつもの緊張とは違うものでした。緊張ではなく期待であったのかもしれません。日本語、英語の原稿、PowerPoint の作成、どれも決して容易ではありませんでした。しかし自分で納得のいくまで試行錯誤し完成させた原稿を発表するからこそ緊張が良いものに感じたのだと思います。今後あのような機会があれば英語で質問に答えられるようにしたいです。

インドネシア訪問やユースサミットを通して私は日本人である自分を「日本人」として客観的に見ることが出来ました。他国からみて日本、日本人はどのように見られているのか、国と国の違い、新しい発見を多く見つけることが出来ました。それとは反対に情けなさも感じました。インドネシアの子は英語があまり話せなくてもどうにかして一生懸命伝えようとしているのに対し、私は言語の違いに流されてしまっていたからです。またインドネシアの子は自国に誇りを持っていました。私は日本人であるのに日本の文化や習慣について答えられない時がありました。今までは自国を大切にしているつもりでしたが全くでした。本当に自国に誇りを持つということは、昔から今、現在までの自国を把握することだと分かりました。長いようで短かった9日間でしたが得られたものは日本で過ごす 9日間とは比べものにならないぐらい沢山あります。無駄にせずこれからに活かします。

確かにインドネシアは日本よりは発展していません。水も日本の安全度に比べるとまだまだです。しかし環境に対する意識ははるかに日本を上回っています。経済が発展しているから先進国なのか、それは違うのではないかとこのサミットを通して思いました。また今後同じアジアに位置する国として多くの関わりをもつだろうインドネシア、その他の国と協力していくには”自己主張”が日本には必要だと強く思いました。どんなに高い技術力を持っていても自分の意見を主張出来なければ意味がありません。だからこそ今私が出来ることは高い技術力を開発するための能力ではなく、自分の意見をしっかり表示する表現力や行動力だと思います。そして英語力です。次の時代を担うのは私達です。日本人の素晴らしさを活かし世界の国々に必要とされる国に発展させるために私達は努力しなくてはいけません。この経験をここで思い出として残すのではなくこれからのために使いたいと思います。本当にありがとうございました。